

農作物生育・技術情報7号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況(8月15日現在 普及センター調査ほ)

●生育状況調査(中苗・ななつぼし)

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	平年との 遅速日数	備考
R6年	87.7	10.6	561	+8	高温に経過し、生育 は平年より早い
平年値	93.7	10.8	522		
差	-6.0	-0.2	+39		

(1) 登熟後半の水管理

8月以降も高温が続き、8/15現在で生育が平年より8日早まっています

土壌が乾燥しすぎると登熟不良の原因となります。収穫の10日前頃までは、土壌表面を極端に乾燥させないように注意しましょう。(水田の適正な水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ、少し足跡が付く程度)

(2) 成熟期予測※8/15時点

出穂期: 7月23日⇒ 成熟期: 9月3日

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	・(3月定植)第9～10果房収穫中 ・(4月定植)第7～8果房収穫中 ・(5～6月定植)第2～5果房収穫中 ・落花(果)、黄変果が見られる。 ・灰色かび病、すすかび病、うどんこ病、アザミウマ類の発生が見られる。	・換気、古葉や内側の葉の摘葉で、過湿環境を抑える。 ・こまめなかん水と追肥を行う。 ・草勢が弱っている場合は、葉面散布で養分を補う。 ・病害虫の定期的な防除を行う。
きゅうり	・整枝、誘引、収穫作業中 ・主茎は18～21節程度まで伸長し、一部ほ場でアザミウマ類の発生が見られる ・8月16日から共選開始。	・病害は予防を中心に防除を行い、害虫が発生した場合は早期防除に努める。 ・ハウス内外の除草を徹底する。 ・主茎の摘芯や側枝の整枝は、一度に行うと樹勢が衰えるので注意する。
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中。 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類が見られる。	・アザミウマ類の薬剤防除の際は、同じRACコードの薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行う。
アスパラガス (ハウス立茎)	・灰色かび病・斑点病の発生が見られる。	・ハウス内外の除草を徹底する。 ・斑点病の防除を定期的に行う。

3 畑 作

●豆類 病虫害防除時期です。ほ場をよく観察し発生が確認されたら直ちに防除を行います。

(1) 大 豆

〈マメシンクイガの防除〉

防 除 時 期
2 回 目 ⇒ 1 回目の散布から 7～10 日後

※ 病虫害防除は、令和6年度 農作物病虫害防除ガイドにより適正な薬剤使用を行ってください。

(2) 小 豆

〈菌核病、灰色かび病防除〉

防 除 時 期	備 考
1 回 目 ⇒ 開花最盛期（7/下～8/中頃）	アズキノメイガと同時防除を実施する
2 回 目 ⇒ 1 回目の散布から 7～10 日後	

※ 病虫害防除は、令和6年度 農作物病虫害防除ガイドにより適正な薬剤使用を行ってください。

(3) てんさい

褐斑病

気温が高くなると急激に蔓延する可能性があるため、引き続きローテーション防除に努めましょう。

4 畜 産

●牧草生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

作 物 名	生 育 状 況			平年との 遅速日数	備 考
	項 目	R 6 年	平 年		
牧草（2 番草）	草丈（cm）	69.6	71.2	－ 1	生育は平年並。

- ①牧草のは種を行う場合は、越冬時の生育確保のためなるべく8月末日まで、遅くとも9月中旬までには終わらしましょう。
- ②新播草地で雑草が多発した場合は、雑草の草丈が20～30cmになった頃、刈取り高さ10～15cmで掃除刈りを行いましょう。
- ③オーチャードグラスは、8月下旬に施肥すると耐凍性の高い分けつが促進され、越冬性が高まります。

●サイレージ用とうもろこし生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

作 物 名	生 育 状 況			生育 期節	平年との 遅速日数	備 考
	項 目	R 6 年	平 年			
サイレージ用 とうもろこし	葉 数（枚）	19.0	18.6	乳熟 65%	＋ 7	高温により、生育は平年より早い
	稈 長（cm）	284.8	293.0			

・本年は昨年同様、ここまでの気温が非常に高く、生育が早く登熟も進んでいます。収穫時期は、平年より1週間～10日程度早まる可能性があります。今後の気象条件、登熟度合に留意し、早めの収穫準備を心がけましょう。

5 農薬の安全使用

散布作業は暑い日中を避け、朝夕の涼しい時を選び、一人で長時間の連続・散布作業は避けるようにしましょう。ドリフトにも十分注意しましょう。

